

# 大館の歴史散歩

## 大 山

火内の  
山々 ③



松峰付近から見た大山

大館盆地の北西にあって、花岡、釈迦内と田代町山田の三区の境界点となっている、標高三七五・七メートルの山である。昔から修験の山として知られ、東北地方修業の道順として、田代町保滝沢に入り、大山東南方の峰越えて歩いたと言う。

この山の東側山腹には、樹齢三百年前後のうっそうとした杉木立に囲まれた、市内で最も古いと言われる「松峰神社」が鎮座し、古くは松峰山と呼ばれていた。

その昔、弘法大師がこの地に

来て地理不案内と連日の雨に難行し、滝の下で不動明王に「我が進む道を教え給え」と祈りを捧げたところ、赤い太陽が顔をのぞかせ、東の方角を知ったと言う。その後、大山の東南方を登り、四方を眺めて「西に月山東に大山あり、これで弘法の身安泰なり」と声高らかに不動様にお礼を述べ、この地に不動明王を祭り、宮柱を建て、東へ向ったと言われている。しかしこれは、後の大地震で崩壊し、寛平三年(八九一)に釈迦内松峰村が産主大神として建立したと言われる。

享和三年(一八〇三)六月に、紀行家菅江真澄翁が古跡を訪ねながら扇田、二井田、釈迦内を巡り、松峰山にあった伝寿院で一夜を過した際、南の谷の崩れから掘り出された「駅路の鐸」という珍宝を見ている。

翌朝、翁は雨の晴れ間に伝寿院を出て、大山の北西にある幸の神平(塞の神平)、目蔵平などを経て、姥沢の館に入り、「岡の名の花もひもとく秋近き、野辺のもも草露ふかくして」と句

を読んでいる。(贅能辞賀楽美)

このように、歴史的な人物の往来も多かった大山は、太古より里人の生活を見てきたのである。花岡地区では「この山に黒雲がかかると雨になる」と言い伝えられたり、夜泣きする子供をなおすために祈願する「夜泣き石」などもあったりと、今なお信仰の山として地元で息づいている。

※今回は、地元での言い伝えを中心にしたため、現実にそぐわない点もあるが、地元での大山に対する意識を汲み取っていただけならと考えている。

〈市役所史跡探訪会〉

### 私の本棚

中央図書館新着図書

「ボクの先生は山と川」  
矢口 高雄著 白水社

現代の気ぜわしい生活環境の中で、ともすればわすれさられようとしている自然。その自然と生活を共に過した著者の少年時代を描くエッセイ集第二弾。



—— 一般書 ——

- ◇闇魔まいる (平岩弓枝) ◇怪傑ゾロ目 (安部譲二) ◇戦士に涙はいらない (落合信彦) ◇武田軍師山本勘介の謎 (渡辺勝正) ◇きらきらと闇に堕ちて (山崎洋子) ◇不機嫌な恋人 (田辺聖子) ◇ノア (藤原新也) ほか

—— 児童書 ——

- ◇野球少年キヨマー (戸部良也) ◇キタキツネのボロとモモンガのネナイ (目黒誠一) ◇母さんの小さかったとき (越智登代子) 急行「北極号」(オールズバーグ) ◇フォードルおじさんといぬとねこ (ウスペンスキー) ほか

📖 7月のテーマ関連図書コーナー

『ホームズと英国』

📖 親子読み聞かせ会

毎週金曜日午後2時30分から

📖 中央図書館の休館日 7月17日、28日

## 観光名刺はかが

市観光物産課では、曲げわっぱ、きりたんぼ、忠犬ハチ公銅像の写真(カラー)を配した、観光名刺の注文を受け付けています。自分の紹介はもちろんですが、大館のイメージアップのためにも、観光名刺を使ってはかががでしょうか。

料 金  
氏名等を印刷し、一箱(百枚) 千円  
申し込み  
7月25日(月)まで  
市観光物産課へ

(A) 曲げわっぱ



曲げわっぱ

(B) きりたんぼ



(C)

忠犬ハチ公銅像

